

学校法人KTC学園 屋久島おおぞら高等学校 学校評価

教育目標

- ・センバス教育を通じ、スクーリングの中で、直観力と共感力を磨き、養うプログラムを実施する。

※センバスとは、ラテン語のSENSUS（感覚）VIVUS（生活）からとった造語で「生きる実感」を意味する

重点目標

- ・安全に留意し、生命を大切に感じられる環境をつくる
- ・関わる全ての生徒が成長実感を得られるよう、創意工夫し続ける
- ・ホリスティック、グローバルな視点から「つながる、ひろがる」を体現する

分野領域

	目標	方策	自己点検評価	評価
学務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善から業務の円滑化を図る</li> <li>・業務の質向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムを利用し、業務進行の円滑化を図り、業務の標準化を進める</li> <li>・内部研修、マニュアル改善、管理マニュアルの改善と修正により、部署内の業務レベルの均一化を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムを利用した業務の標準化は進めることができた。今後も更にシステム化を図り、業務の標準化を進める</li> <li>・定期研修の実施、マニュアル修正は行った。業務レベルの均一化の完成には至っていないため、次年度の課</li> </ul>	B

			題として取組んでいく	
教務部	健全なスクーリング運営  おおぞら高校らしい授業内容や観点評価の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ渦でのイレギュラーな対応を、本来あるべき姿に戻すと同時に、イレギュラーな対応の中で良かったものは継続してできるように内容を見直す。</li> <li>・スクーリングにおける参加人数が増加してもおおぞら高校らしい授業ができるように授業内容の精査、観点評価基準の見直しを図る。</li> </ul>	<p>スクーリングに参加するという本来のあるべき姿へ意識づけることができた。</p> <p>スクーリング開催についてもコロナ前の水準に戻すことができたことにより、1年生の単位修得率を前年度よりあげることができた。</p> <p>新2年生科目に力点を置き、面接指導内容について、全学年見直しを図った。</p>	B
進路指導部	自身の将来について、主体的に考え、選択することが出来る能力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なツールを利用した将来について考えるキッカケとなる教育活動の充実を目指す</li> <li>・具体的な進路選択に必要な情報発信の充実を目指す</li> </ul>	<p>みらいノート・特別授業・オンライン授業など様々なツールや機会を通して将来を意識し、考えさせることができた。</p> <p>・個別の状況に合わせた情報の発信を中心に行うことができた。</p>	B

生徒指導部	生徒対応力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疾病、疾患に関わる研修を行い、生徒を理解する力の向上を目指す</li> <li>・ 問題行動対応に関わる研修を行い、生徒指導力の向上を目指す</li> </ul>	<p>定期研修で疾病、疾患に関わる研修を年間通して実施ができた。</p> <p>問題行動については都度生徒と向き合ってきたが反省への促しには課題が残る。</p>	B
保健部	衛生・安全管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な校内巡視の実施に努める。</li> <li>・ 応急処置や健康管理について教員研修を実施する。</li> </ul>	<p>校内巡視は実施出来ていたが、実施の頻度には課題が残る。</p> <p>実際に起きた事例を用いた研修の実施ができた。</p>	B
学寮部	安全な生活の確保	安心、安全なスクーリングを運営するための施設管理及び危機管理に関する研修を行う	避難訓練等を年間通して実施し、安全管理体制を意識づけることができた。	B
事務部	各校務との連携強化、支援体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おおぞら高校らしいスクーリング運営を行うため、業務の支援体制の確立をめざす。</li> <li>・ 事務職員の当事者意識の確立と、校務業務の理解を深める。</li> </ul>	<p>生徒に向き合うスタッフの後方支援を行うため状況に応じて動くことができた</p> <p>校務業務理解のため担当者との</p>	B

			連携を図ることが出来た	
--	--	--	-------------	--

学校関係者評価

コロナ5類移行後のこの1年間の面接指導に関して、コロナ前の水準に戻すことができたとの事、評価に値する点だと思います。今後、生徒数の増加に伴い、面接指導一回当たりの参加者数増も必要になると思われますので、教職員個々のレベルアップが大切になります。屋久島おおぞら高等学校内だけでなく、外部からの情報などを取り入れていただくことも、積極的にすすめてください。

学寮部の目標「安全な生活の確保」に関して、評価「B」とされていますが、宿泊を伴う面接指導を実施されている学校ですので、ここに関しては「A」評価とできるような安全管理体制の構築をお願いします。

令和 6年 4月 1日 学校との関係 評議員 氏名 小林 英仁